

デザイン性を取り入れた 新製品開発への取組

当社は、教育施設向けの家具を製造してきた長年の実績から、北海道の教育施設分野で大きなシェアを誇っています。

私（佐藤氏）が入社した5年前は、デザインを取り入れた商材の取扱はありませんでした。

デザインを取り入れたものというと、主にお客様からの要望で持ち込まれた案件や、既に設計事務所などでデザインされた案件を製造していました。

商品企画部立ち上げのきっかけとしては、当社のオリジナル製品が作れないかと考え、新しい活動として、自分たちのブランドを自分たちで開発していこうということが始まりです。

もともとある教育部門の家具のデザインを見直して、一般のお客様にも受け入れられる製品を作ろうと、まず着手したのが、約30年前から学校の多目的教室で使われてきた「Pannello（パネロ）」という多方向から使える家具の見直しでした。

ウッドデザイン賞に申し込むため、通常より早い期間で形になり、滝沢ペニヤ株式会社様の協力もいただき、道産材で木製品の良さを伝える製品になったと感じています。



（左）設計部開発室 太田 昌宏氏
（右）営業企画室 佐藤 愛氏



Pannello（パネロ）

ブランドカ・技術力の向上

一般消費者向けの製品を開発し始めた際、教育家具メーカーの当社は、一般消費者への販路がなく、どういったところに販促をかけて良いのかも分からない状況でした。

しかし、会社のブランド力を上げていかないと、今ある教育家具でも価格面などで他社との競争に負けてしまうのではという危機感がありました。

売れる・売れないよりも自社の持っている技術を向上させながら、ブランドの価値を上げていくことを辛抱強く取り組んでいくことが必要と考えました。

デザイン性を取り入れた製品開発を行う際、自社工場にある機械を見ながら、どんどん作れるものを作っていこうと試行錯誤しました。

新たな製品開発では、今までの既成概念にとらわれず、つちかかってきたものを捨てることから始めました。工場の作り手にとっては、今まで作ったことのない特別な作業や変わった作業をすることになるので、抵抗感が強かったです。

長い時間がかかりましたが、デザインを意識したものづくりに取り組み始めてから、工場の作り手の技術力ややる気が向上したように感じています。

ものづくりに対する情熱を持ち続ける

ものづくりは恋愛みたいなもので、一方通行では上手く行きません。お客様のニーズに応えていることはもちろんのこと、商品企画と作り手であったり、商品企画と営業であったり、互いの思いが通じていることがとても大切です。一度でも互いの思いが通じ合ったものづくりができると、喜びも大きく、次へのモチベーションにもつながります。

中小企業では、こうした情熱を持ち続けることは非常に難しいですが、周囲との温度差が生まれないように、コミュニケーションを心がけ、社外でも話題に上るような製品開発に取り組んでいます。

「AYATORI(あやとり)」は、商品企画側が細かいところまで設定して作らせたものです。作り手からの抵抗もありましたが、こだわった製品が道の駅に並び、メディアで取り上げられた時、作り手が非常に喜んだことを覚えています。この経験が自信となり、次のステップに進むきっかけともなりました。当社の知名度やファンが少しずつ増え、デザインの力によって人の心が動かされることを実感しています。



AYATORI(あやとり)

社外デザイナーへ期待すること

社外デザイナーとは、いつか機会があれば一緒に製品開発にも取り組みたいと考えています。

そのためにも、今後、当社が何をやっていきたいのか、軸決めが必要です。受け入れる側の準備が整わないと、社外デザイナーとの取り組みは難しいのではないのでしょうか。

中小企業にとって、デザイナーの柔軟な発想や、我々の考え方を180度変えるような提案があると、チャレンジする火種となりますので、企業とデザイナーとの距離が近づき、気軽に話ができる関係になることに期待します。



Plie(プリエ)



Plie(プリエ)

会社概要

【所在地】(統括本部) 江別市工業町22-1

【TEL】 011-351-3000 【FAX】011-351-3331

【事業内容】 教育・公共施設・オフィス・商業施設・一般家具・什器・備品の企画・設計・製造・施工・販売等

【従業員数】 105名

【設立年】 1953年

【URL】 <http://www.ichimura-seisakusho.co.jp/>